

一寸光陰不可軽

人国記

マツダにとっても、私にとってもモータースポーツとの関わりの中で忘れられない戦いがあります。それは耐久レースの最高峰「ルマン24時間レース」。ルマンの長い歴史の中で、総合優勝を果たした日本車メーカーはマツダだけ、それもロータリーエンジンで成し遂げた快挙です。

ルマンへの挑戦を始めたのは、昭和40年代後半。当初はマツダのディーラーである「マツダオート東京」のチームが参戦を続けていましたが、58年にマツダ本体も加わって「マツダスピード」を設立し、本格的なワークスチームとなりました。私自身が関わったのも、そのころからです。チームの連中から「コーナリングの速度を上げたい」などと相談されては、助言したりパーツ改良を引き受けたりしました。私たちにとってルマンは長らく「参

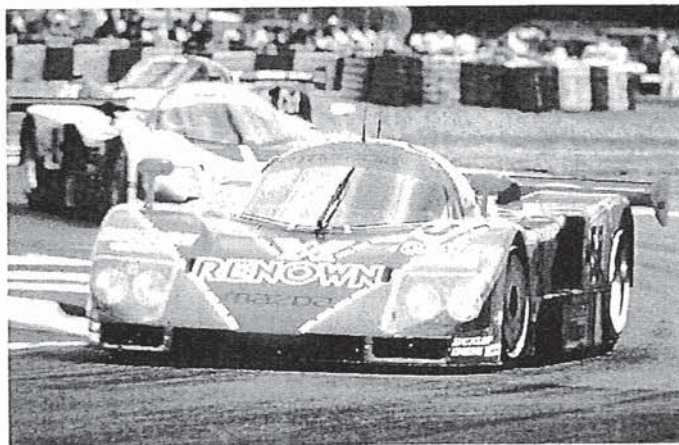
貴島 孝雄 (62) ⑳

元マツダロードスター主査

加「完走」が目標の大会。しかし、参加規定の変更で、ロータリーエンジン車が出場できるのは平成2年のレースまでとなったので、優勝目指して臨んだけれど、残念ながら振るいませんでした。

ところが、変更が先延ばしになり、もう1年だけロータリーエンジンで参戦できることになったんです。神様が与えてくれた最後のチャンスでした。

開催が近づくと、チームから「後輪の安定が悪くなった」と相談がきた。「これは車体剛性の問題だ」とにらみ、ほとんど余裕が残されていない車体底部に、わずかな隙間を見つけて補強材を通したんです。ただ時間がなく、取り付けたボルトの状態がずっ



「最後」の年に劇的優勝

と気掛かりでした。そして6月の本番。会社でテレビ観戦していると、わが「マツダ787B」は終盤に入って2位に浮上。そしてトップだったメルセデスがピットに

ルマン24時間レースで快走する「マツダ787B」。日本勢唯一の総合優勝を果たした (マツダ提供)

入ったんです。「このまま行ってくれ！」。ハラハラしながら画面を見守っていたら、国際電話がかかってきて「勝った！」と大騒ぎ。「え？また走っている…」と不思議がっていたら、生放送だと思っていた映像は1時間遅れの中継だったようで、あとは安心して観戦しました。でも、最後の年に劇的な優勝を飾れて、うれし涙が止まりませんでしたよ。

後日、優勝車が「公開分解」されたんですが、そこで見たのは、急遽取り付けた補強材の取り付け部が大きく変形した姿。「もしこれが折れていたら…」と冷や汗をかきました。

広島県三次市の三次自動車試験場には、ルマン優勝の記念碑があり、山本健一元社長の「飽くなき挑戦」という言葉が刻まれています。ロータリーエンジン開発やルマン制覇といった「挑戦」がマツダの風土。技術者冥利につきる会社です。



九州・山口

産経新聞九州山口版は月ぎめ購読料3000円の朝刊紙です。九州山口地域でも、ご自宅や会社に配達いたします。申し込みは下記のフリーダイヤルか、専用サイトで。

ニュースのご連絡は

九州総局

TEL 092(741)7088
FAX 092(726)2572
kyushu@sankei.co.jp

〒810-0004
福岡市中央区渡辺通
5-23-8
サンライトビル3階

山口支局

TEL 083(923)3333
FAX 083(923)3334
yamaguchi@sankei.co.jp

〒753-0074
山口市中央3-6-2

購読のお申し込みは

☎ 0120(34)3733
www.sankei9.com

販売のお問い合わせは
TEL 092(741)2323

広告のご用は
TEL 06(6633)9474